

戦後80年のあゆみ

日本の終戦から今年で80年が経過します。戦時から現在までの間、私たちの暮らしに大きく影響を与えた出来事などを歴史資料などから振り返ります。

問合先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

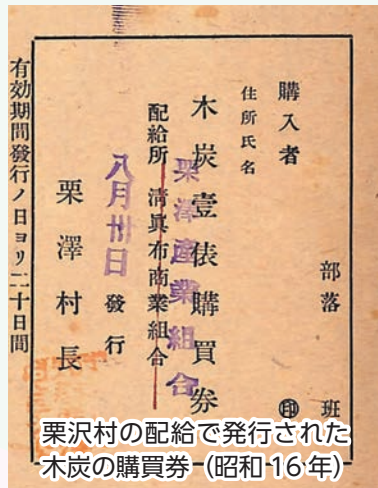
第3回 物不足に耐えた戦時下の暮らし

昭和12年に日中戦争が始まり、戦争が長期化・拡大すると、戦地では兵器や食糧、輸送用の車両や馬、燃料など大量の物資が必要となりました。軍事物資を確保するため国内では生産や販売の自由が制限されるようになり、農業では米や麦をはじめとする農産物を国へ提供する制度が定められ、提供された農産物は各町村の産業組合を経てホクレン農業協同組合連合会の前身である北聯が一元的に集荷する体制が整えられました。

食料品や生活用品は配給によって家庭に届けられ、栗沢村での配給を記録したノートからは、食用油や味噌醸造用の大豆のほか、石炭・灯油などの燃料、衣類、裁縫糸や釘まで、多くの品が配給対象となっていたことが分かります。配給品の受け取りには切符（購買券）が必要となり、各家庭で手に入る物資の量が限られていたため、米不足を補う代用食や豆類などとの混食、燃料になる草木を集めるなど、物資節約の工夫が重ねられました。昭和16年の栗沢村報ではじゃがいもを使った団子や白いんげん豆の餅など代用食のレシピ集を掲載し、栄養のある食事と米の節約を両立するよう呼び掛け、北村などの農村部では農繁期に共同炊事を行い、物も人手も不足する中、工夫と協力によって戦時下の生活に耐えました。

一方、戦闘機による空襲の威力が知られるようになると、その対策が地域に広まりました。各家庭では夜間の照明を漏らさないよう注意を払うとともに、市内では空襲に備え全戸参加での訓練や防空壕造りが続けられました。また、空襲警報が発令された際の近所への声掛けや初期消火には、隣保班（隣組）での協力が重視されました。岩見沢、北村、栗沢では大規模な空襲はありませんでしたが、幌向に艦載機の補助燃料タンクが落下したほか、上幌に小型爆弾が投下されるなど脅威にさらされました。

戦争が終わると、空襲の脅威はなくなりましたが、衣類や食糧の不足に伴い統制は続けられ、物不足に耐える暮らしは昭和26年にサンフランシスコ平和条約が結ばれる頃まで続きました。



広報クイズ

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

令和7年1月に公表した規模見直し後の新病院の病床数は〆□□□床、です。

□に当てはまる数字をお答えください

応募方法

はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-7731）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。5月号の正解は笑顔でした



人の動き

住民基本台帳（令和7年4月30日現在）

人	□	男	34,272人	（前月比－33）
		女	39,242人	（前月比－21）
		総数	73,514人	（前月比－54）
世帯数			40,322世帯	（前月比＋73）

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111（代表）FAX 0126-23-9977

ホームページ <https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/>



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号2枠（申し込み多数の場合は抽選）

掲載料 各号1枠22,000円

申込期限 掲載希望号の3カ月前の月末（9月号に掲載希望の場合は6月30日（月）までに申し込み）

申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518

広告募集中

広告枠

サイズ 縦40mm、横88mm

刷り色 4色（フルカラー）